

事業所における自己評価総括表

○事業所名	江戸川区臨海育成室			
○保護者等 評価実施期間	令和 7 年11月17日 ～ 令和 7 年12月 8 日			
○保護者等 評価有効回答数	【対象者数】	26名	【回答者数】	26名
○職員 評価実施期間	令和 7 年11月17日 ～ 令和 7 年12月 8 日			
○職員 評価有効回答数	【対象者数】	8名	【回答者数】	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月13日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや組織的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小規模施設ならではのきめ細やかな支援の提供と、利用児童と保護者の満足度の高さ	<ul style="list-style-type: none"> ・支援に関する情報の共有や話し合いの場の充実 ・子どもが安心感を持ち楽しく活動に参加できるプログラムの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・密な情報共有と専門性を活かしたチーム力を発揮した支援の継続 ・未来に向けた、支援の引き算に考慮していく
2	多職種が連携し、それぞれの専門性を活かした支援の実施	保育士、心理担当職員、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士といった多種にわたる職員の連携が密にとれている	信頼を寄せてもらえるよう密な連携を継続して、それぞれの専門性を活かしたチームによる支援を維持していく
3	保護者の希望を取り入れた家族講座・講演会の実施や、療育体験（きょうだい支援）等のさまざまな行事の実施に向けたチーム力の強さ	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズや子どもの発達段階に応じた講座を利用時間に行うことで、保護者はタイムリーに情報を得ることができる ・新たな取組として保護者からの意向を受けて実施した療育体験（きょうだい支援）の他に、作品展・大同窓会の開催など全職員が準備から携わりすすめてきた 	年間行事予定の他に必要に応じて、臨時の講座の開催や、療育体験（きょうだい支援）のリクエストもあり実現に向けて日程等検討していく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースの確保	アットホームな小さな事業所ならではの、大きく動くには物足りない広さは否めない	限られた空間でも体幹をしっかりと育めるような、また家庭でも取り組めるような内容を工夫して取り入れる
2	保護者へのフィードバックの際の配慮	親子で取り組む個別療育では、子どもが同席している中で活動の振り返りを行っている	できていること、課題となることなどデリケートな話題もあるため、子どもは離席して支援者と保護者でフィードバックできるよう体制を整える
3	支援力の安定性	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解の共通認識を図り、職員のキャリアやスキルに関わらず同じ方針で支援する力 ・子どもの利用曜日と職員の出勤曜日の兼ね合いで、子どもの姿、状況の把握が口頭での共有となることがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援方法等を掘り下げて話し合い共通理解を深め、直接支援や配慮等に結びつける ・保護者と、子どもの姿や支援の方針などを共有した際に保護者の思いも確認し、より共通理解を図っていく